

“Soft skills people develop as parents are vital for success in workplace. We leverage the skills” -Riccarda



『子育てが 職業を持つうえで マイナスになる』 は迷信です！

早稲田大学 × ASHOKA × みずほ銀行によるソーシャルイノベーションへの取り組み

リカルダ・ゼツザ来日講演

Riccarda Zezza

女性の社会的活躍におけるイノベーションを起こしたリカルダ氏の講演とディスカッションを、〈早稲田〉と〈みずほ〉と、世界的なソーシャルアントレプレナーのネットワークである〈Ashoka〉との協働により開催します。「早稲田から世界を変える！」をスローガンに、思い込みや偏見のとらわれから抜け出し、多様な人材によるイノベーションの機会を創出します。

2018年 **11月15日** (木)

18:15-20:30 (17:30開場)

早稲田大学 早稲田キャンパス14号館102教室

対象：早稲田大学学生・教職員・一般

言語：英語（通訳なし）※日本語の講演要旨を配布

参加費：無料

主催：早稲田大学 WASEDA-Edge 人材育成プログラム
早稲田大学ダイバーシティ推進室

協力：一般社団法人アショカ・ジャパン、みずほ銀行

プログラム

18:15 Opening Speech from Waseda

18:25 ASHOKA の紹介

18:40 Riccarda Zezza 氏講演

19:30 休憩

19:40 Dialogue (パネルディスカッション)

問合せ先

【早稲田大学ダイバーシティ推進室】

TEL：03-5286-9871

MAIL：diversity@list.waseda.jp

【みずほ銀行】

グローバルキャリア戦略部キャリア開発チーム（片岡宛）

TEL：03-6838-7804

※みずほ銀行の方は上記へお問合せ・お申込ください。

事前申込



<https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

上記ウェブサイト内
イベント掲載ページより事前
お申し込みください。

※申込多数の場合は、申込受付を早めに終了する場合があります。

【特別な配慮が必要な方へ】

情報保障や座席の配置希望及び場内誘導などの配慮が必要な場合は、申請フォームに記載の上、2週間前までにご連絡ください。



WASEDA EDGE



ASHOKA JAPAN



MIZUHO



Riccarda Zezza

リカルダ・ゼッサ

2016年選出アショカ・フェロー | イタリア

Founder and CEO | Life Based Value

maam
activates Life Based Learning

イタリア・ローマで育つ。イタリア北部シエナ大学卒業。マイクロソフト(イタリア支社)広報部、ノキア(イタリア支社)コミュニケーション部長を経て、30代半ばノキアのノルウェー・ヘルシンキ本社におけるヨーロッパ全域&アフリカ統括コミュニケーション部長に抜擢される。三年後36歳の時、妊娠したことを上司に伝えると否定的な反応が返ってきたことが引き金となり退社。以来、大企業に浸透している「子どもを持つことが職業人としての成長を阻む」という「迷信」を覆すためにリサーチを始め、科学的エビデンスを基にしたMAAMトレーニングプログラムの開発に繋がった。

2012年ミラノ市内で、母親の共同ワーキング&育児スペース「PIANO-C」をスタートし、同年欧州投資銀行(EIB)のBest Social Innovation 賞を受賞。また同年、エグゼクティブトレーニングで著名なアンドレア・ヴィチュロ(Andrea Vitullo)をはじめ、心理学者、社会学者、医師などとチームを組み、「妊娠、出産、子育て」の時期に子育てを担う人の脳に起こる変化の研究を始める。母親だけでなく父親や(血縁がなくても)親的な役割を担う人の脳の変化についての科学的エビデンスを確立する。この調査の内容を「MAAM: : 母親業という修士号」としてイタリアで上梓。同時にエビデンスに基づいたワークショップを、企業役員や人事部社員に向け実施する。2016年Life-Based Value社を立ち上げ、企業の社員を対象とするMAAMオンラインプログラムを開発。「親脳」が職業人としての成長を助けることを実証する。2017年このオンラインプログラムに対して、UBS Innovation Awardが授与された。現在、イタリア郵政局やミラノ市の他、HPやIKEAをはじめとする35社(うち80%がグローバル企業)に導入されている。

MAAM が多くのトレーニングコースと異なる最大の違いは、学問分野を研究するのではなく、自身の内面を探ること(リフレクション)を促すように編み出されたテキスト、ビデオ、演習に、「参加者が応える」という形をとっている点だ。参加者は人間関係のスキル、組織スキル、イノベーションスキルの3つの能力を向上させるための質問集に回答し、コースの最後には修了証が発行される。この修了証には、コースで習得したスキルが記され、上司と結果を共有することもできる。ここでのキーワードは「Transilience トランジリエンス」という新造成語で表される新しい能力だ。トランジリエンスとは、生活の一つの側面から他の側面へ、つまり職場から家庭へ、あるいは家庭から職場へと能力を移動するスキルを意味している。MAAM は現在、3つのチームと協働している。まず、「MOM」という欧州コミッションが立ち上げたグループと共に、英国など6カ国でのリサーチを実施。また、ヴェネツィア大学と共に、出産前と出産後の「感情の知性(emotional intelligence)」の4分野(エンパシー・傾聴・コミュニケーション・協働)の変化の計測と調査に取り組んでいる。3つめのパートナーの「ベストワークプレイス Best Workplaces」というコンサルティング企業とは、「企業内カルチャー」に焦点を当て出産前と後の社員の変化を測っている。現在、小学生の子ども2人とミラノ在住。



「MAAM | 母親という修士号」
Andrea Vitullo との共著

ASHOKA

(アショカ) は、社会問題の解決を目指すシステム・チェンジメーカーを発掘する活動母体として1980年米ワシントンで発足した非営利組織です。「目の前に見える問題の解決ではなく、その問題を取り囲む複雑に絡み合った社会の構造的欠陥をつきとめ根本的に変えることが、国や大陸を超える大きな変革に繋がる。」という構想が1970年代に生まれました。この構想を元に、そういった変革を生み出す個人(アショカ・フェロー)を探し出し、必要に応じて物心両面から支援を提供し変革を加速する強力なネットワークがASHOKAの核心です。社会のほころびを生み出している根本的な欠陥の是正に取り組む人が増えることによって、不平等と不正義を当たり前としているマインドセットを転換することが、私たちの究極的な目標です。

ASHOKA (アショカ) は、サンスクリット語で「悲しみの能動的不在 (Active absence of sorrow)」を意味します。2018年10月現在、約3500人のアショカ・フェローが93カ国で活動し、根本的な社会変革を推進しています。アショカ・ジャパンは、2011年東アジア初めての拠点として発足しました。2018年までに日本から選出されたアショカ・フェローは6人です。

japan@ashoka.org

